

カモシカのダニが届きました！

佐々木 歩(和歌山県立自然博物館学芸員)

今年(2021年)5月、NPO事務局の高山さんから「カモシカのダニ、要りませんか？」と連絡をいただき、和歌山県立自然博物館にご寄贈いただくこととなりました。同館ではちょうど「マダニにご注意!!」という展示を企画していたところでしたので、是非とも活用したい!と思い頂戴することにしました。

今回、このカモシカ(本紙10ページに記載の個体)からマダニを摘出する作業は、三宅先生と高山さんに行っていました。写真付きで「送りました!」とメールをいただき、ほどなくしてマダニの詰め合わせが手元に到着し、そのすばやさには驚きました。

カモシカに付着していたマダニ(ダニ目マダニ科)は、3属6種140個体でした。その内訳はタカサゴキララマダニ(雄成虫13・雌成虫2・若虫38・幼虫3)、タネガタマダニ(雄成虫1・雌成虫1)、ヤマトマダニ(雌成虫1)、キチマダニ(雄成虫13・雌成虫11・若虫6)、ヒゲナガチマダニ(雌成虫2)、フタトゲチマダニ(雄成虫22・雌成虫15・若虫12)です。

得られたマダニについて一部ですが、小話を紹介します。タカサゴキララマダニは日本に生息するマダニの中では最大級の大きさを誇るマダニです。今回届いた雌成虫は吸血してパンパンに膨れ上がった個体だったので、今回の企画展示に即採用しました(図1)。展示室では「イヤー!デカーイ!」や「うわっ気持ち悪い!こんなんが体についてたらどうする...?」などの感嘆の声が響いておりました。

タネガタマダニは吸血中の雌成虫に交尾を仕掛ける雄成虫の1ペアでした(図2)。交尾とはいつでも雄が精包(精子の入った袋)を鉗角(口器の一部)につけて雌の生殖孔に刺し込むという様式です。マダニ属ではこのような交尾中のペアをよく見るのですが、キララマダニ属やチマダニ属、カクマダニ属では見たことがないので、一生のうちには観察してみたいものです。

実はこのカモシカから得たダニはマダニだけではなくたのですが、それについてはまた次回報告することになります。



図1 展示したタカサゴキララマダニ雌成虫



図2 交尾中のタネガタマダニ
(雌成虫はカモシカから摘出された際に顎体部がちぎれたようです)